

3年間スピーチ「私はこう変わった」【生徒用・課題カード】

Class _____ No. _____ Name _____

🎯 ゴール: 3年間の変化を、現在完了を使って90秒で語れる

場面 卒業前スピーチ大会。入学からの3年間で「続けてきたこと・変わったこと」を、後輩と先生に向けて。

構成: ①入学時の自分(I was ～.) ②続けてきたこと(I have practiced ～ for three years.) ③転機のエピソード ④今とこれから(I have learned ～. / I will ～.)

準備 テストまでにすること(授業2回+家練習)

原こう(7～9文)→先生チェック→キーワードカード3語で暗唱練習。エピソードは「1つを深く」が鉄則。

本番 時間: 1人90秒 / 評価: 4観点×3段階(12点)

達成	相手に伝わったか・目的をはたせたか(いちばん大事!)
正確さ	今回の言語材料(下の「使う形」)が正しく使えたか
流暢さ	止まらずに続けられたか(完ぺきでなくてOK、リカバリーも実力)
態度・やり取り	聞き手を見て・声がとどいたか・あいさつと締めがあったか

✓ 聞き返し(Pardon? / One more time, please.)は減点ではなく加点。本物の会話の技だから、遠りよなく使おう。

ねらい

このテストは何を・なぜ測るのか

測る力	時間の幅をもつ自分の経験を、時制を使い分けて物語る力(現在完了の集大成)
なぜ必要か	現在完了は「3年間」を語るための文法であり、卒業前しかできない評価がこれ。過去形(あの日)と現在完了(ずっと)の使い分けが、自分の物語を語る中で自然に試される。評価であると同時に、学級の3年間を締めくくる文化的行事になる。

評価

ルーブリック(B列＝評価規準「おおむね満足の姿」。採点前に一読してから始める)

達成	A(3点) 変化のストーリーが具体的で、聞き手の心が動いた	B(2点)＝評価規準 過去→継続→今の流れで変化が伝わった	C(1点) 出来事の羅列で変化が見えない
正確さ	A(3点) 過去形と現在完了の使い分けが正確	B(2点)＝評価規準 誤りはあるが時間の流れは通じる	C(1点) 時制が崩れて伝わらない
流暢さ	A(3点) 自分の言葉として語る	B(2点)＝評価規準 カードを頼りに完走	C(1点) 棒読み・中断
態度	A(3点) 間・視線・声量で聞かせる	B(2点)＝評価規準 届く声で最後まで	C(1点) 聞こえない

✓ C→Bの手立て: 条件を1つ減らして再挑戦の機会を(例: メモを見てよい・時間を短く)。再テストはB上限にせず、できた姿をそのまま評価する

運用

当日の流れ(2コマ)

1	ルーブリック(このページ)のB列を一読してから開始——「おおむね満足の姿」を採点の物差しとして頭に置く
2	課題カード(1ページ目)の場面と評価観点を全体で確認(2分)。聞き返しは加点、と必ず伝える
3	順番票にしたがって実施(1人90秒)。採点はその場で記録シートに○をつけるだけ
4	待ち時間の生徒には観察メモ(よかった表現を1つ書く)または自習課題を指定
5	全員終了後、よかった例を2～3、名前を挙げてほめて締める(次回への空気づくり)

☆運用のコツ 事前に「先生の3年間スピーチ」(転勤・失敗談入り)をデモすると、生徒の原こうから借り物の言葉が消えます。スピーチ原こうは卒業文集の原稿として二次利用できて一石二鳥。

記録

その場で○をつけるだけ(A=3 B=2 C=1)

名前	達成	正確さ	流暢さ	態度	計	メモ(次への一言)
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	

✓ 印刷して名簿順に並べておくと、テスト中の記入が3秒で済みます。「メモ」は返却時のフィードバックの種——1語でOK。